

謹んで新年のご挨拶を申し上げます



上士幌町長

竹 中 貢

新年あけましておめでとうございます。

町民皆様におかれましては、新たな気持ちで新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年の上士幌町長選挙におきまして、引き続き町政を担わせていただくこととなり、町民の皆様と共に新たな挑戦をする4年間とすることを決意し、まちづくりに取り組んでまいりました。

「上士幌町第5期総合計画」の推進を中核に据え、地方創生に向け「元気まち上士幌」を実現するため、「上士幌町人口ビジョン・総合戦略」の着実な実行や、このまちが元気になるための各種施策に取り組んでおります。

昨年は、子どもからお年寄りまでが集いやすい出会いにあふれる、ふれあいの場をコンセプトにした新しい生涯学習センターをオープンいたしました。この施設は、町民が一つの輪になつてつながりあえる場として「わっか」と名付けられ、オープン以来たくさんの方々の皆様に親しまれ、ご利用いただいているところです。

今、日本全体で人口減少や少子高齢化が大きな問題となっており、地方においては特に顕著となっております。このような状況の中で、本町の人口は全国的にも稀な増加傾向に

あり、過去4879人にまで減少した人口は、平成29年11月末で4964人に増加し、住んでみたい、住み続けたいまちとして選ばれていることを大変喜ばしく感じております。

本年は、新たな取り組みといたしまして、ナイタイ高原牧場レストハウスおよび道の駅の整備、これとあわせて上士幌町観光地域商社の設立によるさらなる観光の振興や、昨年整備されたバイオガスピラントの本格稼働による資源循環型社会の実現と再生可能エネルギーの利活用、また、交通ネットワーク拠点の整備をはじめとしたふれあいのあるコンパクトな街中空間づくりや生涯活躍のまちの推進など、地方創生に向けた各種施策を積極的に進めてまいります。

地場産業の振興や福祉の充実、子育て支援、教育など、これまでの重点施策と新たな事業を一体的に推進することで相乗効果を生み出し、町民の皆様が「このまちに住み続けたい」「このまちに生まれて良かった」と思えるまちづくりに職員一丸となつて取り組んでまいります。

結びに、本年が町民の皆様にとりまして素晴らしい年になること、また、上士幌町にとりましてさらなる飛躍の年となりますようご祈念申し上げます、年頭のご挨拶と致します。

謹賀新年

平成三十年 戌年



上士幌町議会議長

杉山 幸 昭

町民の皆様、新年明けましておめでとうございませう。

平成30年の年頭にあたり、上士幌町議会を代表し謹んで新春のご挨拶を申し上げます。併せて、町議会に対する日頃のご理解とご協力に對しお礼申し上げます。

昨年は、北朝鮮によるミサイル発射や核開発実験など、国際社会から平和的な解決の呼びかけに応じず、東アジアの緊張が一気に高まりました。これを受けて国内では、自然災害を含む危機管理の在り方がこれまで以上に議論され、政府はもとより各自治体が、国民の安全と安心をどのように守るかに焦点が集まった年だったのではないのでしょうか。

また、10月には衆議院の総選挙が実施され、日本の経済政策、福祉政策、安全保障など、今後の政策運営の是非が問われる選挙となりました。

町内に目を向けますと、住民の交流の場として建設が進められていた生涯学習センター「わっか」がオープンしたほか、農業分野ではバイオガスプラントが稼働いたしました。更

に今年度中には、交通ネットワーク拠点施設が完成し、今後、ナイタイ高原レストハウス、道の駅等、町の中核施設が整備され、地域の活性化と移住・定住の推進に向けて、大いなる希望と可能性を感じる諸事業が進められているところでございます。

本町議会も4年の任期を折り返し、安心して暮らせる町とはどうあるべきかを、政策論議を通して各事業に反映させ、町づくりの一翼を担ってきたところでございます。そして、それらの活動を知っていただくため、「町民と議員の意見交換会」を開催してきました。

議員のなり手不足が全国各地で取沙汰されている中、本町においても、議会の役割と使命を皆様に今一度知っていただき、議会が町民にとって身近な存在となるよう、常日頃の活動に精進する所存ですので、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後となりましたが、町民の皆様にとりまして健康で実り多い良い年になりますよう、ご祈念申し上げます。